

建築物、構築物を起因物とする崩壊・倒壊の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生月	発生時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	1	10 ～ 11	鉄骨矢倉に附設されていた高さ2mの鉄骨上のプレハブ事務所の土台の解体作業で最後の1本の梁のボルトを取り外した時、土台が倒壊し、鉄骨を押さえていた者が鉄骨と傍の仮設用WCとに挟まれ、頭にWCの排気塔部材が刺さった。	30199	10 ～ 29
1999	1	9 ～ 10	駅構内の災害復旧土留擁壁工事現場において、高さ1.8m、幅0.3m、長さ35mのコンクリート擁壁の型枠を解体していたところ、コンクリート擁壁が長さ25mに渡って倒壊したものの。	30104	1～ 9
1999	1	16 ～ 17	建築基礎コンクリート打設のため、幅約2.2m、深さ約1.4mの溝をドラグショベルで掘削し、溝の中に入って整地していたところ境界のブロック塀が崩壊し下敷きとなった。	30201	1～ 9
1999	1	16 ～ 17	建築基礎コンクリート打設のため、幅約2.2m、深さ約1.4mの溝をドラグショベルで掘削し、溝の中に入って整地していたところ境界のブロック塀が崩壊し下敷きとなった。	30201	10 ～ 29
1999	3	13 ～ 14	側溝敷設工事現場において、ドラグ・ショベルで掘削後の溝に入り角スコップで床均し作業をしていたときに、傍のコンクリートブロック塀が約12mにわたり倒れ、その下敷きになった。	30106	1～ 9
1999	3	14 ～ 15	新築工事において、上下水道管を埋設する溝をミニドラグショベルで掘削し、2名が溝の内部に入って埋設作業中、隣地との間のブロック塀が倒れて下敷きになり、1名が死亡、1名が重傷を負った。	30203	10 ～ 29
		8	川改修工事において、積ブロック用隔壁の型枠解体作業中に隔壁が倒れたた		30

1999	2	9	め下敷きとなった。	30107	49
1999	5	14	住宅擁壁の工事において、コンクリート擁壁の基礎下部に排水パイプを布設	30199	10
		15	するためドラグショベルで擁壁のすぐ脇を深さ約40cm掘削し、その中で床付け作業中に、擁壁が倒れてきて下敷きとなった。		
1999	6	14	老朽化した煉瓦造りの倉庫を解体作業中、倉庫全体が一気に倒壊する危険が生じたので、ドラグショベルにワイヤーを掛けて建物を支えながら養生用足場の3段目に上がって指揮をしていたところ、壁の煉瓦が大規模に崩壊して足場に激突したため、足場上から約5.4m下の地面に墜落した。	30199	1~9
1999	7	14	木造倉庫の解体でスレート屋根、屋根タル木、筋かい、壁材を撤去したところ、柱のみで立っていた倉庫が倒壊してきて母屋等の屋根の支持材が、倉庫内にいたミニドラグショベルの運転者の上に崩れてきて、変形したヘッドガードの屋根部分が頸椎に当たった。	30110	1~9
1999	8	14	宅地造成現場の電柱埋設作業において、建てた電柱に作業員が登って配線作業中、電柱が作業員もろとも倒壊した。	30301	50
1999	6	10	高架橋下部工事で、深礎坑内(直径3m、深さ25m)の鉄筋結束及びコンクリート打設用パイプの設置作業中、深礎坑内に二重に設置されていた鉄筋(計152本)のうち、内側の鉄筋(76本)が崩れ落ち、深礎杭最深部で作業していた者3人が下敷きになった。	30105	50
		11			
1999	6	10	高架橋下部工事で、深礎坑内(直径3m、深さ25m)の鉄筋結束及びコンクリート打設用パイプの設置作業中、深礎坑内に二重に設置されていた鉄筋(計152本)のうち、内側の鉄筋(76本)が崩れ落ち、深礎杭最深部で作業していた者3人が下敷きになった。	30105	50
		11			
1999	6	10	高架橋下部工事で、深礎坑内(直径3m、深さ25m)の鉄筋結束及びコンクリート打設用パイプの設置作業中、深礎坑内に二重に設置されていた鉄筋(計152本)のうち、内側の鉄筋(76本)が崩れ落ち、深礎杭最深部で作業していた者3人が下敷きになった。	30105	50
		11			

1999	10	14 ～ 15	ケーソン用の箱型型枠を解体する作業において、チェーンで吊っていた高さ約3.5m、幅約3mの型枠板を昇っていたときに型枠板が倒れ、地面との間に挟まれた。	30111	30 ～ 49
1999	10	15 ～ 16	水路工事現場で碎石の敷き均し作業中、擁壁の一部(石とコンクリートで形成された擁壁)が倒壊しその下敷きとなった。	30110	10 ～ 29
1999	9	8 ～ 9	展示用プレハブハウスの点検中、台風の突風によりハウスが横転しその下敷きになった。	80409	1～ 9
1999	11	14 ～ 15	側溝修繕工事において、側溝脇に土止用のアングルを打ち込むためドラグショベルで掘削した箇所(深さ：約80cm)に入り作業をしていたところ、突然東側の石垣が崩壊し、下半身が下敷きになった。	30106	1～ 9
1999	11	14 ～ 15	冷蔵庫室内で霜取り作業中、天井が崩れ落ちたため天井から吊られているアンモニア(冷媒)の通るコイルが落下し、その下敷きとなった。	80401	1～ 9
1999	10	11 ～ 12	住宅街の道路改良工事で、既設U字溝を撤去したのちバックホーで深さ70cm、幅1mに掘削し、床ならし作業等を行っていたところ、側溝横の高さ約2mの民家のブロック塀が倒れて、作業員2名が掘削溝とブロック塀との間に体を挟まれ1名が死亡、1名が重傷を負った。	30106	10 ～ 29
1999	3	14 ～ 15	コンクリート製側溝の底にコンクリートを打設するため、側壁と地山の間(幅40cm、地山、側壁の高さ約1m)に立ち、ミキサー車のシュートの移動及び側溝内のコンクリートを手で均す作業を行っていたときに、側溝の全長31mのうち約20mの側壁が倒れ、地山と側壁との間に挟まれた。	30109	1～ 9
1999	11	10 ～ 11	災害復旧工事において、ブロック擁壁の基礎と接する河床部分が豪雨で削り取られたのでコンクリートで補強するための作業中、右岸側のブロック擁壁とその上の玉石積み擁壁が高さ6m長さ12mにわたって崩壊し、下で作業を行っていた3人が下敷きになった。	30107	1～ 9

2000	2	10 ～ 11	マンション1階の腰壁(間口180cm、高さ153cm、厚さ18cm)の解体作業で、腰壁の周囲をはつた後、剥き出しとなった鉄筋の左右両側、腰壁下部の二列に並んだ立筋をその下方で切断したところ、腰壁(重さ約500kg)が内側に倒れ、腰壁と建物の壁との間に挟まれた。	30201	1～ 9
2000	10	16 ～ 17	鉄骨造2階建個人住宅建設工事において、2階床部分の小梁間に足場板を渡し、胴縁材を取り付けているときに1階床面に墜落(高さ3.9メートル)した。	30209	1～ 9
2000	10	16 ～ 17	1階金庫室の解体工事中に、未解体の鋼板・コンクリート製の金庫室南側側壁が倒壊し、既に解体した資材の搬出作業を行っていた2名がその下敷きとなり、1名が死亡、1名が重傷を負った。	30209	10 ～ 29
2000	1	16 ～ 17	コンクリート打設のため掘削溝の中で型枠設置の作業をしていたところ、突然民家のブロック塀が倒壊し下敷きになった。	30106	1～ 9
2000	3	14 ～ 15	道路改良工事において、コンクリート基礎上に1段目のコンクリート擁壁(150cm×150cm×14cm600kg)を自立させ、位置調整のためにかがんで目地の整形中に、コンクリート擁壁が倒れ地面との間に挟まれた。	30199	1～ 9
2000	3	9 ～ 10	古紙回収工場の解体作業で、ガスバーナーで鉄骨モルタルの壁(高さ約3m、長さ約6m、厚さ約10cm)を切断中に、倒そうとした壁が反対側に倒れてきたため、倒れた壁に押し倒された間柱に激突された。	10601	100 ～ 299
2000	11	8 ～ 9	解体工事現場において、重機のオペレーターが壁を内側に倒すため、張出部分の壁を縁切りして次の作業の取り掛かろうとしたときに張出部分の壁、スラブ4スパン分がほぼ垂直に崩壊落下し、1名は3スパン目のスラブ下において落下してきたコンクリートの下敷きになり、2スパン目のスラブ上にいた1名はスラブとともに墜落した。	30209	1～ 9
2000	11	8 ～ 9	解体工事現場において、重機のオペレーターが壁を内側に倒すため、張出部分の壁を縁切りして次の作業の取り掛かろうとしたときに張出部分の壁、スラブ4スパン分がほぼ垂直に崩壊落下し、1名は3スパン目のスラブ下において落下してきたコンクリートの下敷きになり、2スパン目のスラブ上にいた1名は	30209	10 ～ 29

			スラブとともに墜落した。		
2000	12	14 ～ 15	コンクリート壁(高さ2m長さ5m)の倒壊工事で、倒壊前の準備作業としてコンクリート壁の縦方向に筋打ちの作業をハンマーで行っていたところ、突然、壁が倒壊し、その下敷きになった。	30209	1～ 9
2000	12	14 ～ 15	鉄筋コンクリート造5階建ビル解体工事において、4階外壁を倒すためのはつり作業中に突然、外壁が倒れ下敷きになった。	30209	1～ 9
2000	12	0 ～ 1	鉄骨造の3階建住宅解体工事において、脚立上で3階壁の鉄骨をガス溶断していたときに壁が倒れてきて下敷きになった。	30309	1～ 9
2000	6	13 ～ 14	高さ約1, 6m、長さ約5, 3mの7段積のブロック塀を金属製のハンマーで解体中に、ブロック塀が倒れてきて下敷きになった。	30201	1～ 9
2000	8	11 ～ 12	解体用車両系建設機械でRC造3階建ビルの3階部を解体中、解体箇所の背後にあった煙突が上部から約7mにわたって倒れ、建設機械の運転席を直撃した。	30201	10 ～ 29
2000	7	15 ～ 16	H型鋼の溶断箇所をガス溶断し内部に詰っていたコンクリートを手持ブレイカーで取り除いていたところブレイカーの先が挟ったため、同僚がバールでこじあげようとしていたときにH型鋼4本(約200kg)が落下して手前に倒れその下敷きになった。	30110	10 ～ 29
2000	11	11 ～ 12	土蔵(11. 5m)の解体作業で、全体の約3分の1を壊したところで手作業により廃材集めをしていたところ、内壁(幅約4. 4m、高さ約4. 0m、厚さ約13cm)が倒壊し、その下敷きになった。	30202	10 ～ 29
2000	6	15 ～ 16	道路新設工事において、土留め用コンクリートパネルで擁壁を設置する作業中、パネルのレベル調整のため仮固定用の金具を取外したところパネルが倒れ、付近にいた者を直撃した。	30106	10 ～ 29
		11	水銀灯埋設工事で掘削作業をしていたときに、倒れてきた古い水銀灯の土台		1～

2000	2	～ 12	コンクリート塊の下敷きになった。	30106	9
2000	3	～ 18	エレベーターピットを施工で、ピットの側壁として設けていた高さ約1m40cm、長さ7mのブロック塀が山留めをしていた土砂約1m <sup>3</sup> とともに崩壊し、電気コードを移動していた者がその下敷きになった。	30201	～ 99
2000	5	～ 17	倉庫に長さ約6mのアルミサッシ用の新しい棚が設置され、その棚への入庫作業(予定質量約100t)が並行する形で行われていて、入庫作業の約90%が終了したときに棚が荷とともに倒壊し、入庫作業を行っていた約30名の作業者のうち9名の労働者が下敷になった。	11101	～ 299
2000	5	～ 17	倉庫に長さ約6mのアルミサッシ用の新しい棚が設置され、その棚への入庫作業(予定質量約100t)が並行する形で行われていて、入庫作業の約90%が終了したときに棚が荷とともに倒壊し、入庫作業を行っていた約30名の作業者のうち9名の労働者が下敷になった。	11101	50 ～ 99
2001	3	～ 18	墓地の石積み擁壁補強工事において、擁壁の養生(支え等)を行わずに44cm離れた箇所で明かり掘削(深さ約1m、幅1.5m)を行い、その中に入って土止め支保工用の矢板を設置していたところ、擁壁が崩れたためその下敷きになった。	30110	1～ 9
2001	3	～ 11	国道沿いの防雪柵収納作業において、支柱を固定している2本のボルトのうち手前のボルトを外し、次いで収納した防雪板に覆い被さるようにして裏側のボルトを外したところ、直立していた支柱が倒れ支柱と防雪板との間に腹部を挟まれた。	30106	1～ 9
2001	2	～ 16	30万t級タンカー建造作業において、船体ブロックの組立で、質量約260tのブロックを仮置きして据付位置を調整中に、ブロックを支えていた鉄製支柱2本が外れブロックが倒壊し、付近で高所作業車の操作をしていた者がブロックとドック床面との間に挟まれた。	11501	100 ～ 299
2001	4	～ 9	鉄骨3階建ビルの解体工事において、2階天井スラブの梁の溶断作業中スラブが崩落し、瓦礫の下敷きになった。	30209	1～ 9

2001	9	10	市道直下のコンクリート擁壁(高さ約4m)の基礎部分の補強工事を行っていたところ、擁壁が高さ約4m、幅約14mにわたり崩壊し、基礎部分で補強作業中の2名が崩壊したコンクリートと土砂の下敷きになった。	30111	1～ 9
2001	11	16	道路舗装に附帯して農業用水パイプを埋設する工事において、道路に沿って掘削した溝(幅約70cm、深さが約70cm?2.3m)の内部で床ならし作業を行っていたところ、道路側に設置されていた現場打ちコンクリート擁壁(長さ約4.6m、高さ1.5m、厚さ約75cm)が倒壊したため法面との間に頭部を挟まれた。	30106	10 ～ 29
2001	12	16	木造モルタル瓦葺2階建の建屋解体工事において、現場の地上で軒板を片付けていたところ、自立していたモルタル壁面が突然背後で倒壊し、その下敷きになった。	30202	1～ 9
2001	12	13	深さ3mの掘削溝へ導水管を布設する作業で、掘削した側面から道路標識柱の基礎コンクリート部分が突き出ていたため、この基礎コンクリートの下部をツルハシで掘っていたときにコンクリートの塊部分が突然剥離して倒れ、土留め用のシートパイルとの間で押しつぶされた。	30110	1～ 9
2002	1	10	排水路の改修工事で、蓋付きのU字溝を布設するためドラグショベルで深さ約90cm、幅約140cm掘削し、床部に約10cmの生コンクリートを入れて均しているとき、コンクリートブロック製の擁壁(基礎部分も含め高さ約160cm、長さ約190cm)が倒れ、擁壁と掘削した道路の舗装部との間に頭部を挟まれた。	30106	10 ～ 29
2002	1	11	下水道工事において、ドラグショベルで掘削した幅0.9m、深さ3.76mの溝内に入りジョレンで掘削面の整形作業中、片側の掘削面が崩れ生き埋めとなった。	30110	1～ 9
2002	2	11	鉄骨造3階建て建物の解体工事で、鉄骨柱のアンカーボルト部分を溶断中、柱(高さ3m)部分とそれに附帯する2階床スラブ(厚さ13cm、幅1.2m)が建物中央方向に倒れその下敷きとなった。	30209	1～ 9
		10	花火製造所で木造平屋建て倉庫の解体を4名で手作業で行っていたところ、建		1～

2002	4	～ 11	物が崩れ落ち中で作業していた1名が下敷きになった。	30202	9
2002	7	9 ～ 10	車庫解体工事において、軽量鉄骨梁にワイヤーロープを掛けるため踏面のない脚立の2段目（高さ91cm）に上がって作業をしていたときに、バランスを崩してアスファルトの地面に墜落し、墜落する途中で鉄骨梁に触れたため鉄骨枠が倒れてきて梁部分の下敷きになった。	30209	10 ～ 29
2002	5	14 ～ 15	工場建屋の改築工事で、L字型間仕切り（コンクリートブロック製）の一面を解体して基礎部分のはつり作業を行っていたところ、残りの一面（2.5m×3.1m、約1 t）が倒れ下敷きになった。	30201	10 ～ 29
2002	5	0 ～ 1	最大積載量12.5tのバルク車で牛用飼料を農家に運び、牛舎に設置されている高さ約6.5m、容積9.7?のタンクに上部より飼料を投入していたところ、タンクが倒壊して下半身がタンクの下敷きとなり上半身が牛用飼料に埋もれた。	40301	30 ～ 49
2002	6	17 ～ 18	新築倉庫の鉄骨建方作業で、柱4本を建て長手方向の傾斜梁を2本架設し次の梁を架設するために、高所作業車（ケージ内で運転）で移動して梁横で待機しているときに、架設した柱と梁が倒れたため高所作業車のケージと倒れた梁との間に挟まれた。	30201	1～ 9
2002	3	10 ～ 11	プレハブ倉庫の撤去工事で、倉庫の骨組みとなっていた門型鉄骨（高さ2.5m×幅2.5m、質量約160kg）の梁部分にロープをかけて手で引っ張ったとき、その鉄骨の下に歩いてきた者が倒壊した鉄骨が激突した。	30209	1～ 9
2002	7	15 ～ 16	市道拡幅工事において、L字擁壁設置予定箇所（高さ2.4m幅1.8m）の土手をドラグショベルで掘削するため掘削面の下でドラグショベルに合図をしていたところ、深さ1mの位置に埋設されていたヒューム管（径33cm、長さ4m）が掘削面の土砂および街灯（長さ4m、根入60cm）とともに倒壊して激突された。	30106	1～ 9
2002	4	9 ～ 10	清掃工場の解体作業において、ゴミ焼却灰を地下に搬送するシューターの一部（質量約1 t）を溶断する作業をしていたところ、シューターが転倒したため地上との間に挟まれた。	30209	1～ 9



2002	8	13 ～ 14	駐車場の造成工事の一環として側溝にU字溝を敷設するため、隣家との境界にあるコンクリート塀のコンクリート基礎部の一部をはつり機ではつっていたときに、コンクリート塀が倒れて地面との間に挟まれた。	30109	1～ 9
2002	10	11 ～ 12	水路用ボックスカルバートを設置するため県道に接する部分をドラグショベルで掘削中、道路擁壁下部のU字溝の基礎部分の土砂が幅0.6m長さ2.0mに亘って崩落したので掘削及び床ならし作業を中止して道具等の片付けを行っていたときに、土砂とともに道路擁壁が崩壊し下敷きになった。	30109	1～ 9
2002	10	11 ～ 12	新しいU字溝の敷設（総延長約1000m）工事において、掘削した箇所（深さ約70cm）に木の根が見えたので切断していたときに、擁壁が倒壊して腹部を挟まれた。	30199	30 ～ 49
2002	12	16 ～ 17	高校の耐震補強工事において、3階トイレのパイプスペースの隔壁（ブロック積、モルタル仕上げ）の下部をコンクリートブレーカーで破碎していたときに、隔壁の一部（1m×3m×14cm、約540kg）が突然崩壊しその下敷きになった。	30209	50 ～ 99
2002	12	9 ～ 10	宅地造成地において、トラック積載型小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.93t）で法面（全長約24m）に緑化ブロック（質量725kg）を積み上げる作業中、ブロック3段目が終わり4段目（高さ約3m）を全長の半分まで積み上げたときに、裏込めをしていなかったためブロックの自重で3、4段目が倒壊し、作業中の4名がブロックの下敷きになり1名が死亡した。	30199	1～ 9
2002	12	9 ～ 10	自社の門柱を移動させるため基礎付近を掘削していたところ、基礎の底にコンクリートの塊が付着したのでバールで塊を削ったときに、門柱が倒れ直撃された。	30199	10 ～ 29
2002	12	11 ～ 12	マンション新築工事のための床掘り作業において、敷地境界のよう壁（厚さ44cm、高さ1.3m、長さ15m）を補強するためドラグショベルで深さ2.3m、幅1.2m、長さ16mにわたり床掘りし型枠を組んでいたときに、よう壁が倒壊し挟まれた。	30201	10 ～ 29
2002	11	13 ～	平屋木造家屋の解体作業において、土壁を倒すため控えを外したとき脚立を置き忘れたことに気づいて取りに行こうとしたときに、壁が倒壊して下敷き	30202	1～

		14	になった。		9
2002	11	9 ～ 10	浄水場配水池改良工事において、換気塔の点検用タラップの踊場（コンクリート製、3m×1.2m、厚さ20cm、推定質量1.48t）の型枠下部パイプサポートを撤去したところ、踊場が突然落下し踊場と足場板との間に胸部を挟まれた。	30199	100 ～ 299
2002	10	11 ～ 12	水路用のボックスカルバートを設置するため県道に接する部分をドラグショベルで掘削していたところ、道路擁壁下部の土砂が幅0.6m、長さ2.0mに亘って崩落したので掘削及び床ならし作業を中止して道具等の片付けを行っていたときに、土砂とともに道路擁壁が崩壊し2人が下敷きになり1人が死亡した。	30109	1～ 9
2003	2	14 ～ 15	橋脚の下部工工事において、橋台フーチング部分の鉄筋枠（10m×5m×高さ1m）の内部で、橋台本体部分の立筋とフーチング鉄筋枠とを結束する作業を行っていたところ、既に結束が完了していた立筋110本が倒れ、それと同時に鉄筋枠自体が押し潰されて胸部を圧迫された。	30105	10 ～ 29
2003	2	7 ～ 8	会社に出勤してきたとき、別の者が門扉をフォークリフトで開く作業を行っていて、その鉄製門扉が倒れてきてはさまれた。	80109	1～ 9
2003	2	9 ～ 10	河川の魚道工事において、移動式クレーンによるL字溝の撤去運搬作業で、車両に1つ目のL字溝を積み込んで仮置きし、補助者が荷のつり上げに使用していたワイヤロープを外したときに、仮置き状態であった質量約2tのL字溝が倒れたため背後から下半身をはさまれた。	30199	10 ～ 29
2003	3	10 ～ 11	木造平屋建て住宅の解体工事において、建物のブロック壁の解体に伴って内側に10度ほど傾いていた壁に取り付けられていた木材板をバールで取り外していたところ、突然壁が倒れて下敷きになった。	30209	10 ～ 29
2003	3	15 ～ 16	電線の地中化工事で、電線管をコンクリート製変電ボックスの差込口に取付ける作業を行っていたところ、車道の雨水溝に接する形で残っていた古い建設物の基礎コンクリート（柱状で質量2.8t）が崩れ落ちてきて直撃した。	30199	30 ～ 49

2003	3	15 ～ 16	2階建パチンコ店兼住宅の解体工事において、解体作業で出た木片を拾い集めていたところ、コンクリートブロックでできている壁が高さ約1.7m付近から上の部分（高さ約2m×幅約3.9m）が倒れてきて下敷きになった。	30209	1～ 9
2003	4	14 ～ 15	鉄骨コンクリート3階建建物の解体で、2階道路面の壁を解体して側面の壁を引き倒すため、鉄骨柱2本目の根元のフランジを溶断していたときに壁が倒壊して2名が下敷きになった。	30209	1～ 9
2003	4	14 ～ 15	鉄骨コンクリート3階建建物の解体で、2階道路面の壁を解体して側面の壁を引き倒すため、鉄骨柱2本目の根元のフランジを溶断していたときに壁が倒壊して2名が下敷きになった。	30209	1～ 9
2003	5	13 ～ 14	木造2階建て従業員寮の解体作業で、フォーク・グラップルを取り付けた車両系建設機械で最後に残った2階部分の屋外通路を支えていた梁（H鋼）の西側部分の解体をはじめたところ、通路東側部分が突然崩壊し、通路下で残材片付け作業をしていた者が下敷きになった。	30209	10 ～ 29
2003	7	9 ～ 10	既存のコンクリート壁の補強工事において、コンクリート壁の基礎付近の床掘り作業を行っていたときに、コンクリート壁が崩落し下敷きとなった。	30199	1～ 9
2003	7	11 ～ 12	市道の側溝補修工事において、ドラグ・ショベルで掘削した溝（深さ約80cm、幅約1.1m、長さ約16.6m）に碎石を入れ掘削溝内で床均し作業を行っていたところ、側面のブロック塀（塀の高さ約1.9m、長さ約15.6m）が倒壊し、ブロック塀と道路との間にはさまれた。	30106	1～ 9
2003	8	11 ～ 12	セメントサイロ工場において、サイロ内の固結したセメントをかき出す作業を行っていたときに、セメント山が崩落してサイロ下部の抽出口に転落し埋没した。	170209	30 ～ 49
2003	9	14 ～ 15	ゴルフ場内の練習場の鉄筋コンクリート製支柱を油圧ショベル（リッパ、クラッシャ）を用いて撤去しているときに、支柱が油圧ショベルの運転席に倒れてきて下敷きになった。	30209	1～ 9
		10	ビリヤード場から外部駐車場へ通ずる出入口を閉鎖するため、築造されてい		10

2003	9	～ 11	たコンクリートブロック壁（積み上げブロック4列12段、幅183cm×高さ241cm×厚さ15cm）を撤去していた「はつり工」2名が倒れてきたブロック壁の下敷きになり、うち1名が死亡した。	30209	～ 29
2003	10	～ 11	コンクリートブロック塀（高さ1.8m、幅約5m、質量約1.6t）解体で、エアーチッパーを使用して基礎部分をはつっていたときに塀が倒壊し下敷きになった。	30209	1～ 9
2004	5	15 ～ 16	解体工事現場において、フロントアタッチメント（カッター）を取り付けたドラグ・ショベルにてプラント建屋の鉄骨支柱を切断作業中、当該プラント建屋がドラグ・ショベルの上に倒壊し、当該機械の運転席にいた被災者が運転席と共に押しつぶされた。	170209	1～ 9
2004	11	～ 11	市道脇に雨水を通すU字溝を敷設する工事で掘削作業中に、市道脇の民家のブロック塀（高さ160cm）が基礎を残し8.5mにわたり倒壊、溝の床固め作業を行っていた被災者がブロック塀と溝の縁に挟まれた。	30110	1～ 9
2004	2	11 ～ 12	道路拡張工事現場で、帯工の型枠をはずしていた時、突然当該帯工が倒壊し、コンクリート床との下敷きになった。	30106	1～ 9
2004	5	11 ～ 12	校舎増築工事の鉄骨建方作業において、鉄骨支柱を移動式クレーンを用いてつり上げ、地面に垂直に据え、各部のボルト締めを行っていたところ、支柱が倒れ、上部で作業をしていた被災者が支柱もろとも地面に叩きつけられた。	30209	1～ 9
2004	4	1 ～ 2	SRC造のビル解体工事において、5階部のコンクリート柱の内部の鉄筋および鉄骨をガス溶断作業中、同柱が壁と共に倒壊し、被災者が挟まれた。	30209	1～ 9
2004	11	14 ～ 15	RC造4階建住宅解体工事において、階段室の側壁を解体していたところ、突然壁が被災者の方に倒壊し、下敷きとなった。	30209	1～ 9
		16	建物改修工事現場の地下1階において、コンクリートブロック製の間仕切り		1～

2004	3	～	壁（高さ4.9m、横4.2m、厚さ0.15m）を解体中、壁の下部分をハンマーで叩	30201	9
	17		いていたところ、壁が手前に倒れ、その下敷きとなった。		
2004	1	11	会議室改修工事において、冷暖房用のダクトを取り外すため、ダクトを囲む	30201	10
	～	12	コンクリート壁を解体中、コンクリート壁の下部のはつりが終わったため一		
			時作業を中断しようとした直後、突然東側のコンクリート壁が倒		29
			壊し下敷きとなった。		
2004	9	9	高さ約2mのブロック塀を縦に必要箇所切断し、その後ドラグ・ショベルで倒	30209	1～
	～	10	壊させる工事において、被災者は、倒壊させるより前に、そのブロック塀付		
			近で準備作業を行っていた時に、ブロック塀が幅約5mにわたって倒壊し、そ		9
			の下敷きとなった。		
2005	12	11	木造建物の解体工事において、鉄骨フレーム造の物置にベルトスリングで玉	30202	10
	～	12	掛けを行っていたところ、物置が不安定な状態であったため、転倒して下敷		
			きとなった。		29
2005	6	15	鉄骨柱の建方作業中、移動式クレーンにより基礎に据え付けて仮止めを行っ	30201	10
	～	16	た建方開始後、3本目の柱の頂上部に上り、玉掛けワイヤロープを外し、地上		
			へ下りる際、鉄骨柱が傾き始めたため頂上部に戻ったものの、そのまま鉄骨		29
			柱が倒壊し、被災者が鉄骨柱とともに墜落した。		
2005	11	13	2階建て納屋解体作業現場にて、解体された建材の分別作業に従事中、煉瓦壁	30209	1～
	～	14	の上部に固定されていた角材を重機で撤去したところ、突然煉瓦壁が倒壊		
			し、当該壁と重機との間に挟まれた。		9
2005	11	14	保管庫新築工事において、地山（斜度17度）に沿って斜面に打設したコンク	40301	10
	～	15	リート壁（長さ30m）の内側で残材の片づけをしていたところ、当該壁が内		
			側に倒壊し、被災者が下敷きとなった。		29
2005	3	10	事業場内において、倉庫に保管している米を確認するため、倉庫の脇を歩い	40301	50
	～	11	ていたところ、倉庫の下屋が倒壊して激突し、その際、下屋に積もっていた		
			雪が落下し、その下敷きとなった。		99
			鉄骨コンクリートブロック造の車庫解体工事において、鉄骨の屋根部分を撤		

2005	10	16	去後、軽量コンクリートブロックで造られた壁の一部を残して解体する作業中、残す部分をコンクリートカッターで縁切りしても完全に縁が切れなかった箇所を被災者がハンマーで叩いて縁切りしていたところ、壁が高さ約3m、幅7mにわたって倒れ、その下敷きとなった。	30201	10 ～ 29
2005	3	0 ～ 1	店舗解体工事において、ブロック造壁を引き倒す直前に、引倒し場所に入り込み、壁が自重で倒れ、下敷きとなった。	30209	1～ 9
2005	1	13 ～ 14	室内の間仕切壁撤去作業を行うため、壁の上下左右の端部を鉄筋が露出するまではつり、片側をパイプサポートとチェンブロックで支持したところ、壁が倒れ、被災した。	30201	1～ 9
2005	12	15 ～ 16	鉄骨建て方中の梁上で、鉄骨製の柱にボルト取り付ける作業を行っていたところ、柱が傾き、アンカーボルトが抜け、柱と梁がともに倒壊し、柱と梁との間に挟まれた。	30201	10 ～ 29
2005	2	11 ～ 12	車庫解体工事において、梁等を溶断した後に自立していた前面枠を車両積載形クレーンでつり上げるため繊維スリングで玉掛作業中、前面枠が急に倒れ、前面枠とクレーンのアウトリガーとの間に挟まれた。	30209	1～ 9
2005	3	11 ～ 12	木製電柱の撤去作業において電柱に上がり、抜柱用の台付けを取り付けようとしたとき、地中に埋まっていた電柱が腐食のため折れて倒れ、電柱とともに被災者が墜落した。	30301	10 ～ 29
2005	5	11 ～ 12	台風被害により崩壊した防波堤の災害復旧現場において、石積みの防波堤が崩壊し、乗っていたコンクリート製の床板とともに海中へ転落し、海中で当該床板の下敷きとなった。	30111	10 ～ 29
2006	3	10 ～ 11	鉄骨・コンクリート造3階建て集合住宅の3階部分及び屋上部分を解体していたところ、手摺付3段コンクリートブロックが丸太足場側に落下し、当該足場が当該ブロックの激突した振動で揺れたため、当該足場の上に乗っていた被災者はバランスを崩し、前方の3階スラブ上に飛び降りたものの、上方から落下してきたコンクリートの塊に強打され、4.72メートル真下の地面に転落した。	30209	1～ 9

2006	4	14 ～ 15	護岸裏の土砂流出による災害復旧工事現場において、2名で残された護岸（ブロック積み）の解体をしていたところ、幅約5m、高さ約2.4mの護岸（ブロック積み）が倒れて、護岸裏にいた被災者が被災した。	30199	1～ 9
2006	4	9 ～ 10	スーパー新築工事現場の生活排水路の一部を撤去してボックスカルバートに改修する作業において、生活廃水路の一部を撤去後その下部をドラグ・ショベルで明かり掘削していたとき、下流にあった生活排水路が崩壊し（高さ2m、長さ3.9m、奥行1.8m、重量約14.5トン）、崩壊した排水路内で掘削溝の水の汲み出し作業をしていた作業員とともに掘削溝に転落し、作業員1名が死亡した。	30201	1～ 9
2006	5	12 ～ 13	木造家屋の解体工事現場において、午前の作業が終了し、昼休みに解体工事現場内で休憩中、被災者が休憩していた付近の壁（高さ270×幅313厚さ12センチ）が被災者側に倒壊し、その下敷きになった。	30209	1～ 9
2006	5	10 ～ 11	事務所ビルの改修工事現場において、3階天井（漆喰天井）の解体作業中、解体作業責任者がバールを使用して天井の漆喰を剥がしていたところ、突然、天井（幅2.2m×長さ11.2m）が壁を支点として落下した。解体作業責任者は声が聞こえたので、声の方を見ると10m先で被災者が落下した天井に寄りかかった状態で座り込んでいた。	30201	30 ～ 49
2006	7	2 ～ 3	建物解体工事現場にて、間仕切りのコンクリートブロック（高さ298cm、幅370cm、厚さ20cm）の撤去作業中、コンクリートブロックが作業員の方向に倒れてきた。作業員は下敷きになり、死亡した。	30209	10 ～ 29
2006	8	11 ～ 12	3階建ての鉄骨鉄筋コンクリート造の建物の解体工事において、被災者はアセチレンガスを用いて屋上のペントハウスの南側の壁の鉄骨を溶断する作業を行っていた。被災者が南側の鉄骨の溶断を行った後ロープ等で引っ張って壁を倒す予定であったが、被災者が溶断作業を行っているときに南側壁面が突然被災者側に倒れてきて挟まれた。	30201	50 ～ 99
		11	店舗→住宅用途変更改装工事において、コンクリート壁に窓を設けるために、はつり作業し、壁に鉄筋で繋がったままのコンクリート壁を取り除こう		

2006	9	～ 12	とした被災者が、鉄筋をサンダーにて切断し左右及上部の繋がれた鉄筋をすべて切断した際に、コンクリート壁の塊が倒壊し被災者に激突した。避けようとした被災者の倒れた場所にコンクリート壁に繋がった鉄筋がコンクリートの塊とともに倒壊して、倒れた被災者にあたった。	30201	1～ 9
2006	9	～ 1	ケーブルを接続する出張作業中（1日のみ）、高所作業車を方向転換するため被災者は車から降りて車の誘導を行っていたが、その直後に運転手が門柱と被災者が倒れているのを発見した。	30301	1～ 9
2006	10	～ 9	8 門扉撤去の段取り作業中に、門扉を押したところ門扉が倒れて止めを超えて被災者の上に倒れた。	30199	1～ 9
2006	10	～ 10	9 酒造会社の建屋等解体工事において、麴室として使用していた土蔵を解体するため、屋根と前壁を取り壊した。その後、3人で土蔵内部で資材の分別・回収作業を行っていたところ、側壁が倒れてきて3人のうち1人が逃げ遅れ、下敷きになった。	30199	30 ～ 49
2006	11	～ 15	14 建物の解体作業現場で、コンクリートブロック壁が倒壊し、解体作業に従事していた作業員がコンクリートブロック壁と鉄骨に激突され、床面と鉄骨の間にはさまれた。	30201	0
2006	11	～ 16	15 事業場所有の資材倉庫等の解体・整地工事において、土木作業員3人が、木造平屋造（軒高2.8m、間口14.7m、奥行き6.3m）の資材倉庫を手作業で解体していたところ、同倉庫が突然横方向に倒れて、同倉庫の内部にいた被災者1人が下敷きとなった。	30199	10 ～ 29
2006	12	～ 12	11 建築後30年を経過して老朽化した事業主自宅のブロック塀（高さ1.9メートル、長さ12.5メートル）の自然倒壊を防止するため、事業主と被災者が手工具で当該ブロック塀を解体していたところ、ブロック塀が全長に渡って倒れ、被災者がその下敷きになった。	80109	1～ 9
2006	8	～ 10	10 工場で平置きされた船体ブロック外板に鉄板の壁（以下フローア）を垂直に溶接取付けする作業中、フローア（幅2.6メートル、高さ1.5メートル、厚さ1.4センチメートル、重量430キログラム）が、前屈状態で作	11301	50 ～



		11	業していた被災者に覆いかぶさるように倒れた。		99
2007	3	10 ～ 11	土砂崩壊防止のためのコンクリート壁造成工事において、被災者がコンクリート壁（高さ約2m×長さ約4m×厚さ約40cm、推定重量約7.5t）の型枠パイプサポートを地山側で取り外し、解体していたところ、約77度の角度で自立していたコンクリート壁が地山側に倒れ、地山とコンクリート壁との間にはさまれた。	30108	1～ 9
2007	9	9 ～ 10	鉄筋コンクリート建築物の5階の解体工事に伴い、鉄筋の溶断を行っていた作業者が倒れてきた壁にはさまれた。	30209	1～ 9
2007	7	13 ～ 14	鉄筋コンクリート造の住宅解体現場にて、住宅南面の壁兼ブロック塀をチップパーにて解体中、倒壊してきた高さ約2m、幅約2.6mのブロック塀の下敷きになった。	30201	10 ～ 29
2007	7	10 ～ 11	L型擁壁（PC版、重量4.3t）を据え付けるため、25tトラッククレーンを用いて立て起こし作業をしていた。L型擁壁を立て起こして、取り付けていた4箇所の専用のつりクランプを外したところ擁壁が倒れ、つりクランプを外す作業のために立て掛けていたはしごを支えていた被災者が、倒れた擁壁の下敷きとなった。	30201	10 ～ 29
2007	3	8 ～ 9	グラップル装備の解体用重機オペレーターをしていた被災者は、他の作業者3名と共に木造平屋家屋の解体作業を行っていた。同家屋の北壁及び西壁の解体作業を開始し、被災者は重機で西壁を地面に倒した後、重機から降りて他の作業者と共にガラの分別作業を行っていたところ、続いて解体する予定であった北壁が南側へ倒壊し、被災者は倒壊した壁の下敷きになった。	30209	30 ～ 49
2007	3	14 ～ 15	4階建て事務所ビルの解体工事において、4階フロアの解体時に3階に落ちた鉄骨梁の付いたデッキプレートが横に立った状態になり、引き倒そうとドラグ・ショベルにワイヤーを掛けて引いたが倒れず、様子を見に行った作業員2名がその後倒れてきたデッキプレートの下敷きになった。	30209	0
		16	船体ブロック組立作業中、壁面鋼板（縦3.5m、横9.7m、重量3.7		10

2007	7	～	t) を床面鋼板に取り付けるため、締めつけ用チェーンで固定して仮止め溶接を行っていたところ、壁面鋼板が倒れて被災者が下敷きとなった。	11501	～	29
2007	11	～	13 被災者が、溝内に仮置きされたL字型ブロック（重量約2 t）に玉掛用具を取り付けようとした時、L字型ブロックが倒れた。被災者は、倒れたL字型 14 ブロックと溝の壁にはさまれ、死亡した。	30309	1～	9
2007	2	～	10 自社所有ホテルの内部改装工事において、居室内の浴室側面にあったコンク 11 リートブロック製の壁を撤去するため、被災者が壁をハンマーで叩いていた ところ、当該壁が被災者側に倒壊し、下敷きとなった。	30209	30	～ 49
2007	7	～	10 被災者は一人で飼料運搬車の専用のアームを使用し、飼料サイロ（最大容量 11 3 t、高さ4.9 m、直径2.3 m）の中に鶏のえさを入れる作業を行っていた。農場長が当該サイロの下敷きになっている被災者を発見し、病院に搬送したが、死亡した。	40301	10	～ 29
2007	6	～	13 個人住宅の敷地内に敷設されているブロック壁が経年劣化により傾いていた ため、当該ブロック壁を撤去する作業を行っていた。当該ブロック壁を高速 14 カッターを用いて切断作業中に突然ブロック壁（高さ1.1 m、幅2.7 m） が撤去作業を行っていた足場側に倒れ、足場上で作業を行っていた作業者が 下敷きとなった。	30199	1～	9
2007	11	～	16 校舎解体工事現場において、油圧圧碎機（ニブラー）を使用して、高さ約1 17 9 mの渡り廊下の階段部分を解体していたところ、当該階段部分が倒壊し、 ニブラーを運転していた作業者が下敷きになり死亡した。	30201	30	～ 49
2008	8	～	14 鉄筋コンクリート造4階建ての建築物解体工事現場において、被災者は油圧圧 15 碎機（ベースはドラグ・ショベル）を地下を解体した廃材の上で運転 し、2、3階の外壁の柱、梁及びスラブの一部をカッター付アームを用いて引 き倒したところ、柱等が2階床に倒れたはずみで更に地上に落下し、その一部 が油圧圧碎機のキャビンに直撃した。	30209	10	～ 29
2008	9	～	16 浄化槽解体工事で電動カッターを壁に取り付けて天端から1.9mの深さで横に 切り、続いて全幅4mの壁を縦（幅68cm、厚さ22cm、重量0.8t）に切って6枚 に分割していた。切断が最終箇所付近まで進行したとき、カッターが壁に食	30109	1～	

		17	い込んで停止したため、2人がかりで引き抜こうとしていたときに分割した壁体6枚が手前に倒壊して近くで見ていた被災者が下敷きとなり死亡した。		9
2008	4	8 ～ 9	住宅改築工事現場において、作業員10名で柱を交換するために油圧ジャッキ及びパイプサポートを用いて木造家屋の2階部分を持ち上げる作業をしていたところ、木造家屋が倒壊して木造家屋の下敷きになり死亡した。	30202	1～ 9
2008	1	16 ～ 17	鉄骨コンクリート造4階建ビルの解体作業現場において、4階部のALC板の内壁及び切断した鉄製の柱を同時に引き倒す作業を行っていたところ、レバーブロックを操作していた被災者が逃げ遅れて倒れてきた鉄製の柱の下敷きとなった。	30309	1～ 9
2008	9	16 ～ 17	飲食店の看板解体工事において、解体していた看板を支えていた鉄骨が倒壊して、作業を請負った事業主と一緒に作業を行っていた被災者に当たり死亡した。なお、被災者に当たった鉄骨は縦横20cm、長さ322cmのH鋼で重量160kgであった。	30209	1～ 9
2008	7	13 ～ 14	火災にあった住宅（木造2階建て）の解体現場において、焼け残った柱を倒すために柱にチェーンソーで切れ込みを入れロープで引っ張ったが倒れなかった。そこで、被災者自身が、柱の切れ込み付近をハンマー（柄の長さ1m）でたたいたところ、柱まわりの壁が落ちてきて、下敷きとなり死亡した。	30209	1～ 9
2008	9	11 ～ 12	鉄塔の建替に伴い、送電線を既設鉄塔から仮設鉄塔に移し替える際、4名の作業員が張り出し部の上で碍子（がいし）を取り外す作業をしていたところ、地上45m付近で本体部分が折れて墜落した。	30301	50 ～ 99
2008	9	11 ～ 12	鉄塔の建替に伴い、送電線を既設鉄塔から仮設鉄塔に移し替える際、4名の作業員が張り出し部の上で碍子（がいし）を取り外す作業をしていたところ、地上45m付近で本体部分が折れて墜落した。	30301	10 ～ 29
2008	3	13 ～ 14	建物内部の吹付け石綿封じ込め工事の準備作業において、建物内部に構築されていたコンクリートブロック製の間仕切壁を解体中、当該ブロック壁が幅約4.8m×高さ約2mにわたり倒壊して作業員2名が下敷きとなった。	30209	30 ～ 49
		10	スタックークレーンの撤去工事において、掃除機を使用して周囲の清掃作業		

2008	11	～	11	を行っていた際、解体途中であった鉄骨製のラック（高さ483cm、幅227cm、重さ推定100kg）が倒れて被災者が下敷きになった。	11209	1～ 9
2008	5	～	15 16	建築物の解体作業現場で被災者が粉じん飛散防止のための散水作業をしていたところ、溶断中の建築物が倒壊し、その下敷きになり死亡した。	30209	30 ～ 49
2008	8	～	10 11	ビルの管理人として常駐していた被災者に地下1階駐車場に至るスロープに設置されていたシャッターの袖扉（高さ440cm、幅120cm、厚み9cm、重量250kg）が突然倒れ、身体が下敷きになり死亡した。	150101	100 ～ 299
2008	6	～	13 14	住宅改修工事で、住宅（長屋形式）を区画するコンクリートブロック塀を解体する際、ブロック塀全体（幅160cm×高さ200cm×厚10cm、重さ約700kg）を倒そうとして、被災者が最下段のブロックをチッパーで砕く作業を行っていたところ、当該ブロック塀が倒れて被災者が下敷きになり死亡した。	30309	1～ 9
2008	11	～	10 11	木造平屋の解体工事現場において、同敷地内の離れに設けられていたコンクリートブロック造のトイレを解体するために被災者が大ハンマーを用いてコンクリートブロック壁をはつっていたところ、コンクリート製、重量約500kgの天井部が落下して死亡した。	30209	1～ 9
2008	11	～	10 11	鉄骨倉庫(23×15×6m)建築工事で組み立て中の鉄骨柱が倒壊した。2本の柱に各々作業者が上り、梁を取り付けようとしていたところ、1本の柱が傾きだし、もう1本の柱に倒れ掛かかって2本とも倒れた。最初に傾き始めた柱の上部で作業をしていた作業者は、移動式クレーンでつられていた梁材に掛まり転落しなかったが、もう1本の柱で作業をしていた作業者は、倒壊する鉄柱とともにコンクリート床面に叩きつけられた。	30201	10 ～ 29
2008	1	～	8 9	個人宅の敷地内に設置されている門の傾きを直し、補強するための門改修工事現場で被災者が門柱の根元周辺のコンクリートを電動ハンマーで破碎する作業を行っていたところ、門が倒壊して当該門が被災者に激突した。	30209	1～ 9
				道路災害復旧工事において、道路下の河川に護岸のために河床から擁壁を築		

2008	2	14 ～ 15	造していた。基礎のコンクリート打設した部分の上に型枠を組み、2日前にコンクリートを打設した高さ1～2m、長さ18m、厚さ40cm、総重量約14tの擁壁の裏側の型枠を3名で解体していたとき、擁壁全体が突然倒れた。この際、1名が身体をはさまれ死亡し、他2名は脱出中に負傷した。倒れた擁壁と基礎部分の接合面は綺麗にはがれていた。	30106	1～ 9
2008	12	8 ～ 9	上水道管移設工事のため、民家のコンクリート壁（高さ1.5m、長さ9.7m）横の道路（幅3.5m）を床掘り（幅0.6m、深さ1.2m、長さ12.1m）し、その中に入り計測作業を行っていた。その際、突然倒れてきたコンクリート壁と床掘り側面にはさまれ死亡した。	30110	10 ～ 29
2009	2	16 ～ 17	木造家屋（旧洋裁工場）の解体工事現場において、被災者は16時ごろに金属廃材を積んだダンプトラックを運転するため入場したが、ダンプトラックの荷が満載になっていなかったため待機することとなった。現場では最後の壁2面の解体作業中、グラップルで壁のうち1面を引き倒したと同時にもう1面の壁が倒れ、付近を歩いていた被災者に柱が当たった。	30209	30 ～ 49
2009	12	9 ～ 10	道路の防雪柵設置工事現場において、被災者は、荷つり作業をしていた車両積載形トラッククレーンの後ろ側に立ち、交通誘導を行っていたところ、市街地から走行して来た乗用車にはねられた。その後、乗用車は車両積載形トラッククレーンに追突し、被災者は、乗用車と車両積載形トラッククレーンにはさまれた。なお、現場には注意喚起のカラーコーンと看板が置かれていた。事故時の天候は晴れ、路面は乾いていた。	30302	30 ～ 49
2009	12	9 ～ 10	道路の防雪柵設置工事現場において、被災者は、荷つり作業をしていた車両積載形トラッククレーンの後ろ側に立ち、交通誘導を行っていたところ、市街地から走行して来た乗用車にはねられた。その後、乗用車は車両積載形トラッククレーンに追突し、被災者は、乗用車と車両積載形トラッククレーンにはさまれた。なお、現場には注意喚起のカラーコーンと看板が置かれていた。事故時の天候は晴れ、路面は乾いていた。	30302	30 ～ 49
2009	11	9	被災者が建設中の護岸と掘削した地山（高さ約3.4m）の間で、護岸の型枠の解体作業を行っていたところ、地山に埋設されていた古い護岸（幅約3m、高	30202	10 ～

		10	さ約1m、厚さ約50cm) が土砂とともに倒壊し、その下敷きとなった。		29
2009	9	14 ～ 15	自社の倉庫の改築を代表者他1人で行っていた。鉄骨の建て方作業中に柱、梁、桁が倒壊し、基礎部にいた被災者に鉄骨（長さ5m、重量約80kg）が落下した。	30199	1～ 9
2009	3	14 ～ 15	市道改良工事における側溝基礎工事の準備作業が終了したため、側溝から出ようとしたところ、市道と民地境の斜面に沿って設けられていたコンクリート製の壁（L12.5m、H80cm、D13～28cm）が突然崩れ落ち、その下敷きとなった。	30106	10 ～ 29
2009	7	15 ～ 16	建物解体（RC造、一部4F建）工事現場において、3F壁部分をハンドブレーカーで縁切作業中、壁が倒壊し下敷きになった。	30201	10 ～ 29
2009	4	12 ～ 13	民家解体工事現場で民家解体後、周囲のブロック塀撤去のため、ドラグ・ショベル（0.6立方m）を用いてブロック塀手前を約40cmほど掘削をしたのち、ブロック塀の基礎部分である最下段部手前側を削岩機にて破碎していたところ、突然ブロック塀（高さ1.9m、長さ14.2m）が倒れ、下敷きとなった。作業員2人死亡、代表者1人が負傷した。	30309	50 ～ 99
2009	4	12 ～ 13	民家解体工事現場で民家解体後、周囲のブロック塀撤去のため、ドラグ・ショベル（0.6立方m）を用いてブロック塀手前を約40cmほど掘削をしたのち、ブロック塀の基礎部分である最下段部手前側を削岩機にて破碎していたところ、突然ブロック塀（高さ1.9m、長さ14.2m）が倒れ、下敷きとなった。作業員2人死亡、代表者1人が負傷した。	30309	1～ 9
2009	6	13 ～ 14	コルゲートタンクの架台をジャッキで支持して、作業員が1人で架台の鉄骨部材の受架台取替作業を行っていたところ、タンク底部の鉄製排出口が突然抜け落ち、一気に大量の砂が流出し、生埋めとなった。直後に被災者が助けに入ったところ、再び流出した砂に埋もれた。	30209	10 ～ 29
2009	6	13 ～	コルゲートタンクの架台をジャッキで支持して、作業員が1人で架台の鉄骨部材の受架台取替作業を行っていたところ、タンク底部の鉄製排出口が突然抜け落ち、一気に大量の砂が流出し、生埋めとなった。直後に被災者が助けに	30209	10 ～

		14	入ったところ、再び流出した砂に埋もれた。		29
2009	1	16 ～ 17	護岸工事において、間仕切り壁（上辺4.8m、底辺6m、高さ2.5m、厚さ0.28m、重量10t）の型枠解体作業中、間仕切り壁が倒れ、解体作業中の被災者が下敷きとなった。	30107	10 ～ 29
2009	2	9 ～ 10	村道の排水溝設置工事において、掘削箇所に近接した民家の既設ブロック塀の倒壊防止のため、ブロック塀をベニヤ板と単管パイプ、木材（棒）で支えていたが、排水溝設置のため、被災者が掘削箇所において準備していたところブロック塀が倒壊し被災者は下敷きになった。	30110	1～ 9
2010	7	9 ～ 10	道路側溝整備工事のため、民家のコンクリート壁（高さ約2m、厚さ約30cm）の下で、道路側溝部分の床堀作業を労働者5名で行っていたところ、コンクリート壁裏の土砂ごと長さ約10mにわたって崩れてコンクリート壁が倒壊し、労働者2名がコンクリート壁の下敷きとなり、搬送先の病院で死亡が確認されたもの。なお、現場代理人の話では、床堀は深さ60cm、幅80cm、コンクリート壁の根入れは20cmであったとのこと。	30106	1～ 9
2010	7	9 ～ 10	道路側溝整備工事のため、民家のコンクリート壁（高さ約2m、厚さ約30cm）の下で、道路側溝部分の床堀作業を労働者5名で行っていたところ、コンクリート壁裏の土砂ごと長さ約10mにわたって崩れてコンクリート壁が倒壊し、労働者2名がコンクリート壁の下敷きとなり、搬送先の病院で死亡が確認されたもの。なお、現場代理人の話では、床堀は深さ60cm、幅80cm、コンクリート壁の根入れは20cmであったとのこと。	30106	1～ 9
2010	8	11 ～ 12	病院の内装工事で撤去しようとしていた壁（コンクリートブロックを積み上げモルタルで固めたもの。一部に鉄筋が入り）が天井から離れて下に垂れ下がってきたので、その壁を被災者他4名で支えようとしたところ、壁が突然作業側側に倒れてきて、被災者が倒れてきた壁に激突されて死亡したもの。	30201	10 ～ 29
2010	8	14 ～	ガソリンスタンド解体工事において、敷地境のブロック塀を解体していた。4次請負労働者2名が手持ちのブレーカーでブロック塀（長さ約13m、高さ約1.3m）の下部をはつり、3次請負労働者1名がむき出しとなった内	30209	1～

		15	側の鉄筋の溶断を行っていた。13mのうち約11mまではつりと溶断が済み、残りをはつっていた際、ブロック塀全体が自立できなくなって手前に倒れ、はつり作業中の1名が死亡、同じく1名が負傷したもの。		9
2010	9	9 ～ 10	建屋解体工事において、ドラグショベルを使って屋内の居住スペースのコンクリートブロック壁を解体作業中、運転士（現場代理人）の指示でコンクリートブロック壁に立てかけてあったバールを取りに行き、ブロック壁に背を向けて前方へ移動していた際、後方から3列12段積み（幅1.18m、高さ約2.3m）のブロック壁（内部の鉄筋が少ない）が倒壊し、被災者はうつ伏せの状態の下敷きとなったもの。	30209	1～ 9
2010	9	11 ～ 12	9階建ての建築物の解体工事において、屋内のコンクリートブロック製の壁の解体作業中、壁の床に取り付けられていた横木を取り外したために同壁が倒壊し、壁の下敷きとなった。	30209	100 ～ 299
2011	6	14 ～ 15	東日本大震災により一部倒壊した擁壁（石垣上にコンクリートブロックを積み上げたもの）の補強工事現場において、擁壁の根元から約0.6メートル離れた床堀箇所には被災者が、倒れてきた石垣及び土砂の下敷きとなったもの。被災時の被災者の作業内容は不明であるが、床堀箇所において、敷き均した碎石の手直し又は確認作業を行っていたものと推定される。	30199	10 ～ 29
2011	12	15 ～ 16	建築中のメタン発酵槽コンクリート躯体に設け、コンクリート打設したメンテナンス作業架台（庇状のコンクリート構造物のもの）の脱型のため、パイプサポートを外し1名が構造物の上で、1名が下で型枠材を取り外していたところ、アンカーボルトが躯体から抜け構造物が落下、その下敷きになった。	30201	1～ 9
2011	8	15 ～ 16	壁面のALCボードの取り外し作業の後、H鋼の枠により自立していた鉄製の開閉扉の固定状態（上部H鋼溶接不十分）が不安定であり、また下部溶接部も簡易なもので経年劣化していたため、4人の人力により早急に取り外しを行おうと、2人が枠組みの両脇を支え、1名が徐々に力を加え枠組みごと溶接部より切り離し体育館床に押倒そうと降下させていたところ、急に下部溶接部が切り離れ、反対側で支えていた労働者の上に崩落したもの	30201	10 ～ 29



2011	8	23 ～ 0	駅のエスカレーター設置のための土木改良工事における、地上から地下階への階段通路の側壁をウォールソーで7つに切断されたコンクリート塊を移動式クレーンでつり上げて搬出する解体作業において、側壁のうちコーナー部分のコンクリート塊をワイヤで玉掛けし、移動式クレーンでつり上げようとしていた時、隣のコンクリート塊（重量3.8トン）が倒れ、退避していた玉掛け者が下敷きになった。	30199	10 ～ 29
2011	11	14 ～ 15	平成23年10月23日に発生した地震の被害調査と救助活動を行うため、10月26日から現地で活動をしていたところ、平成23年11月9日夜に、トルコ東部で発生したM5.6の地震により宿泊していたホテルが倒壊。救出されたものの病院に搬送中に死亡したものの。	170209	
2011	2	13 ～ 14	RC壁柱（プレキャストコンクリート（PC）板（サイズ2540×880×200mm、重量980kg）をスリット状に建て込む構造の不連続壁）を築造するため、PC板を据え付け、控えサポートを設置後、クレーンの吊りワイヤロープの玉外しをしたところ、PC板が倒壊し、近くで次のPC板の建て込み準備作業をしていた被災者が下敷きとなったもの。	30201	30 ～ 49
2011	6	10 ～ 11	個人住宅のブロック塀の解体工事において、当該工事を請負った事業場の代表者が、下請け労働者1名（被災者）と2人で作業を行っていたが、高さ145cm、幅176cm、厚さ15cm、重量680kgのブロック塀の基礎部を代表者がチップングハンマーで斫っていたところ、当該ブロック塀が倒れ、近くでコンクリートがらを集積していた被災者がその下敷きとなった。	30209	1～ 9
2011	1	9 ～ 10	被災者は、おごえ川流末整備工事での排水を河川へ流す吐き出し口のコンクリート擁壁（1.9×2.0×0.45m 重量約3t 傾斜角63度）の製作において、コンクリート打設後の養生を終え、型枠の脱型作業を行っていたところ、当該擁壁が倒れ、その下敷きとなり被災したものの。	30106	50 ～ 99
2011	7	13 ～	廃業した養豚場の飼料サイロ（FRP製、高さ5.2m）を解体する作業中、サイロの鋼製支柱を溶断した後、サイロを倒すために被災者がサイロの下部で溶断後の支柱をハンマーで叩いたところ、サイロが倒れ、当該サイロ	30309	1～ 9

		14	の下敷きになったもの。		
2011	5	14 ～ 15	午後から、被災者ら6名は、ホッパー（7m×7m、深さ12.7m）内に固着した原料の除去作業を再開した際、被災者が、投げ入れたスコップが跳ね上がり、開口部分（直径1.2m、深さ6.1m）に落ち込んだため、上部から垂らした親綱につかまり、開口部の底部まで入って行った。スコップを拾い上げたのでほかの作業員が上部へ引き揚げていたところ、開口部分の周囲が崩壊し、生き埋めとなり、死亡したものである。	11001	10 ～ 29
2011	3	11 ～ 12	被災者と同僚の2名で「折りたたみ式現場事務所」を組み立てようと、垂直方向に折りたたまれた床（重量約250kg）を支えていたところ、同僚が基礎石を取りに行ったため、被災者1名で床を支えることになり、支えていた床が倒れかかり、被災者が床の下敷きとなったもの。	30108	1～ 9
2011	11	9 ～ 10	鉄骨造6階建てビルの解体工事現場において、1階部分の外壁を倒す作業を行う際に、外壁が倒れ込む区域に被災労働者がいたため、当該外壁に押しつぶされて被災したもの。	30209	1～ 9
2012	10	13 ～ 14	広告塔の看板を張り替える作業中、被災者らは広告塔に備え付けられていた設備（アルミ製のはしごを加工したもの）に乗り、看板の張り替えを行っていたところ、はしごの部材が破断したため同設備ごと地面に墜落し、うち1名が死亡した（地面から看板下端まで約15m）。なお、同設備は看板に設けられているレールにかけられた状態で設置されており、人力により水平方向に移動することができる。	30209	1～ 9
2012	9	14 ～ 15	雨水用排水路の改修工事において被災者らは、排水路のコンクリート床のはつり殻の掻き出し作業をしていたところ、取り壊し予定のなかった北側の側壁が倒れてきて、被災者が挟まれて即死した。なお、災害発生場所における南側の側壁は、前日までに取り壊しが完了して、はつり作業をしていた排水路はL字型の状態だった。	30107	10 ～ 29
2012	12	15 ～	アルミ製のカーポートを新築する工事中、基礎用の2つの溝内に、梁を取付けた支柱を各4本建てた後、被災者が溝の中に入り、支柱をハンマーで叩き、間	30209	1～

		16	口の間隔を調整していたところ、支柱が4本目から1本目まで順次倒れ、被災者の頸部及び胸腹が支柱の間に挟まれた。		9
2012	9	16 ～ 17	被災者はコンクリート壁を解体中、6段積みされているブロックのうち一番下のコンクリート壁を壊し、鉄筋が見える状態してからエアカッターで鉄筋を切断している際、鉄筋が壁を支えられなくなり倒れ、逃げ遅れたため下敷きとなった。	30201	1～ 9
2012	8	13 ～ 14	法面にコンクリートブロックを設置し擁壁を建設する工事において、事業者がドラグショベルを運転し、最後の一枚を吊って設置し、被災者がワイヤーロープの玉外し作業を行っていたところ、コンクリートブロックが被災者側に倒れ、下敷きとなった。被災者は、骨盤骨折等による大動脈損傷により失血死した。	30199	1～ 9
2012	6	11 ～ 12	岸壁建設工事において、被災者らは岸壁海側のたれ壁（鉄筋コンクリート製）を作るため鉄筋を組み立てていたところ、当該鉄筋が海側へ傾きながら倒れ、3名が海に投げ出された。1名は自力で岸壁に泳ぎ着いたが、2名が海中で鉄筋の下敷き状になり、死亡した。なお、被災者らは救命胴衣を着用していた。	30111	30 ～ 49
2012	6	11 ～ 12	岸壁建設工事において、被災者らは岸壁海側のたれ壁（鉄筋コンクリート製）を作るため鉄筋を組み立てていたところ、当該鉄筋が海側へ傾きながら倒れ、3名が海に投げ出された。1名は自力で岸壁に泳ぎ着いたが、3名が海中で鉄筋の下敷き状になり、死亡した。なお、被災者らは救命胴衣を着用していた。	30111	30 ～ 49
2012	4	11 ～ 12	被災者はコンクリート擁壁を設置する河川護岸工事において、コンクリート打設の完了後、その型枠を解体しようと、既存の護岸と擁壁の間で作業していたところ、既存護岸の基礎コンクリートが崩壊し、その下敷きとなって死亡した。	30107	10 ～ 29
2012	8	14 ～ 15	間仕切りのブロック壁をエアピックハンマーによりはつっていたところ、突然間仕切りのブロック壁が倒壊し、近くでガラ（はつりカス）の片付け作業をしていた被災者がその下敷きとなった。	30209	10 ～ 29

2012	1	8 ～ 9	2階建軽量鉄骨造アパートの解体工事現場において、解体した資材を仮置き位置へ移動作業中、資材と共に重機が梁を引っ張ってしまい、2階外階段の床を支持していた鉄骨がたわみ、床が脱落、同床で溶断作業をしていた作業員2名が墜落し、1名が死亡し、1名が重傷を負った。	30201	10 ～ 29
2012	4	14 ～ 15	ホッパーへの砂利投入作業の際、ホッパーシュート部に砂利が堆積し作業に支障が生じたため、外部から除去作業を行った。被災者は、除去できなかった一部の砂利を除去するため、ホッパー下部に設置されているベルトフィーダからホッパーシュート内部に入った際、砂利に埋まり死亡した。	20202	1～ 9
2012	7	11 ～ 12	住宅地盤沈下修正工事現場において、当該住宅床下の地盤を手掘りで横方向に掘削している際に、住宅基礎部分のコンクリートの一部が上から崩落し、被災者の体の一部が掘削地面との間に挟まった（掘削高さ約1.5m、奥行き約2m）。被災後、天候が豪雨となり、掘削箇所に浸水し、救出するまでの間に溺死した。	30202	1～ 9
2012	3	15 ～ 16	木造平屋建ての納屋の解体工事中、屋根瓦を撤去し、外壁材である杉板を取り外した状態で廃材の整理を行っていたところ、突然建物が南側に倒壊し、その下敷きになった。	30209	1～ 9
2012	6	16 ～ 17	木造2階建の倉庫3棟（北棟、中棟、南棟）の解体工事現場で、中棟を解体するため、現場責任者がグラップルで中棟東側の梁を引き抜いたところ、中棟全体が倒壊し、作業員2名が西側の壁面の下敷きとなり、1名は死亡、1名は負傷を負ったもの。なお、被災者2名は倒壊防止用の控えを設置するため、梯子及び脚立に昇り西側壁面に穴を掘る作業を行っていた。	30209	1～ 9
2012	7	19 ～ 20	骨材ヤード内砕砂骨材ビン底部に設置されている2基のホッパーを、業者が修理をすることとなった。そのための準備作業として、6名で砕砂骨材ビン内の砕砂を手作業でホッパーに落とし、排出する作業を開始した。約45 tを排出し、砕砂骨材ビン底部北側ホッパー部分の回り約50cmが露出するまで掘り進めた際、西側砕砂が崩れ6名が砂に埋まった。被災者のうち、完全に埋まった2名が死亡した。	10901	10 ～ 29
			骨材ヤード内砕砂骨材ビン底部に設置されている2基のホッパーを、業者が修		

2012	7	19 ～ 20	理をすることとなった。そのための準備作業として、6名で砕砂骨材ビン内の砕砂を手作業でホッパーに落とし、排出する作業を開始した。約45 tを排出し、砕砂骨材ビン底部北側ホッパー部分の回り約50cmが露出するまで掘り進めた際、西側砕砂が崩れ6名が砂に埋まった。被災者のうち、完全に埋まった2名が死亡した。	10901	10 ～ 29
2012	10	12 ～ 13	塀の改修工事において、塀を解体するため塀の下部を電動ピックハンマーで横方向へ直線状に研っていたところ、塀が幅262cm×高さ105cm（厚さ19.5cm、重さ0.7 t）にわたって倒れ、斫り作業を行っていた被災者が倒れた塀の下敷きとなり死亡した。	30209	1～ 9
2012	3	13 ～ 14	個人住宅の解体工事現場において、高さ約2.5m、幅6mのブロック塀のうち、地上から高さ1.2mの範囲のブロック塀を残して解体するため、被災者は、ピックを用いて幅6mにわたり、高さ1.2mの箇所をはつり、その部分にあった鉄筋をサンダーにより切断していたところ、ブロック塀が倒壊し、下敷となった。	30309	1～ 9
2013	3	14 ～ 15	被災者は、現場工区内の埋戻し作業を行っていた。支持物の最下層の脚部補強材を復旧する作業中に、支持物の構成材である単管が折れ、倒壊した降雪用仮屋根（30m×28mの範囲）の下敷きとなった。	30201	50 ～ 99
2013	11	11 ～ 12	損傷した蔵（木造）2棟の内、1棟の解体を終え、がれき等の撤去及び積込みの作業を行っていた際、袖壁（蔵2棟の間を通行できないようにするレンガ造の壁）が倒壊し、その付近でがれき等の撤去を行っていた被災者が下敷きになり、死亡した。	30209	1～ 9
2013	5	15 ～ 16	集成材からおが屑を製造する工場内の積込場所において、おが屑をサイロの落とし口から4トントラックの荷台上に積みこんでいたところ、荷台上にいた被災者の上に大量のおが屑が落下して埋まり、病院へ搬送されたが死亡した。尚、荷台上にいた被災者は、サイロの落とし口からおが屑が出てこないため、長い木の棒をサイロの出口に差し込んで排出させようとしていたところ、大量のおが屑が荷台上に落下した。	80209	10 ～ 29

2013	12	9 ～ 10	被災者は、既存のブロック塀の解体作業中、ブロック塀が倒れ、倒れたブロック塀と隣地建物の外壁との間に身体を挟まれた。	30201	10 ～ 29
2013	3	11 ～ 12	被災者は、学校解体工事において、移動式クレーンにアタッチメントを取り付けた車両系建設機械のくい抜機（以下、くい抜機）を用い、建物基礎部分に埋設されていた直径約45cm、長さ約20mのPC杭を引き抜く作業を行っていた。地面から約6mほどの高さまでPC杭を自立させながら抜いたところ、地面とほぼ同じ高さの位置で折れ、折れた杭がくい抜機の運転席に倒れ、運転していた被災者を直撃した。	30108	30 ～ 49
2013	11	15 ～ 16	被災者は、同僚と鉄骨作業所（平屋）の解体を行っていた。壁・屋根等を手ばらしで外し、骨組み（柱・庇トラス）が残った。その後、庇トラスを溶断、解体するため、庇トラスにワイヤロープを掛けて重機で吊り上げ固定してから、溶断する予定であった。同僚がワイヤロープを掛けて少しした後、庇トラスが倒壊。その横で脚立（高さ1.8m）の上から2段目の踏面（高さ1.5m）に乗っていた被災者に激突し、被災者は墜落した。	30209	1～ 9
2013	8	11 ～ 12	被災者は、地上4階建てRC造の建築物（マンション）の解体作業の補助として、コンクリート圧砕機で解体する箇所に対し、当該建物の3階部分から散水作業を行っていた。被災者が作業していた箇所（3階部分）の床とコンクリート壁が倒壊し、当該コンクリート圧砕機と落下したコンクリートとの間に挟まれて死亡した。	30209	1～ 9
2013	5	14 ～ 15	木造2階建ての個人住宅の解体工事現場において解体作業中、北西側の外壁（土壁、幅約4m×高さ約2.2m×厚さ約10cm）が突然倒壊し、倒れてきた外壁の上端の軒桁が被災者の頭部に当たった。	30202	10 ～ 29
2014	12	13 ～ 14	ビルの解体作業中、4階の床部分にて、ハンドブレーカーを使用し、壁の下部のはつり作業を行っていたところ、壁が内側に倒れ、壁と4階の床部分との間に挟まれ、死亡した。	30201	30 ～ 49
2014	12	9 ～	鉄骨造2階建解体工事現場にて、解体作業を行っていたところ、一階ひさし	30209	1～

		10	部分が崩壊し、被災者がひさしの下敷きになった。		9
2014	11	11 ～ 12	下水道工事中、L型擁壁脇を開削していた際、擁壁が倒壊し、開削部分にいた被災者ら2名が擁壁に激突され、1名が死亡した。	30110	1～ 9
2014	11	14 ～ 15	鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の解体工事現場にて、被災者が、建物の5階で車両系建設機械（解体用）を用いた壁面の引き倒し作業をしていたところ、引き倒した壁面の下敷きとなった。	30209	1～ 9
2014	7	11 ～ 12	ブロック壁の解体作業中、解体したブロック壁が、解体作業を行っていた被災者の上に崩壊し、崩壊してきたブロック壁と地面との間に体を挟まれ、圧迫死した。	30209	1～ 9
2014	6	13 ～ 14	屋上に設置されている鉄塔看板を撤去する際、支柱のH型鋼を被災者がガス溶断していたところ、看板が倒れ、頭部を保護帽ごとはさまれた。	30201	10 ～ 29
2014	3	22 ～ 23	坑内のL型擁壁の設置作業にて、位置、高さのレベル最終調整を行うためバールにてL型擁壁を持ち上げ、擁壁とスペーサーのすき間にライナー（厚さ2mm）を挿入していたところ、擁壁が倒れ、作業員1名が挟まれた。	30102	30 ～ 49
2015	5	16 ～ 17	木造2階建て料亭解体工事において車両系建設機械（解体用つかみ機）を使用する作業中、当該重機の右側方で被災者が解体後の破片等を袋詰めしていたところ、隣地境界のブロック塀が倒壊し、被災者の後方から覆いかぶさって下敷きになったもの。被災者は、病院に搬送後死亡。	30209	1～ 9
2015	3	12 ～ 13	木造平屋農機具倉庫解体作業で、東側、西側、南側の壁を解体後に残っていた北側の土壁（高さ約5m、幅約6m）が南側に向かって倒壊した。1階で足場部材の撤去を行っていた作業員と代表が倒壊した土壁の下敷きになった。周辺で分別作業を行っていた2人の作業員が、土壁を撤去して作業員を救出した。代表は自力で脱出し、救急要請した。作業員は意識不明であったが、搬送先の病院で死亡した。	30209	1～ 9
			S造4階建の倉庫の解体工事現場において、上層より解体を進め、2階床面		

2015	1	10 ～ 11	で北面の外壁引き倒し作業準備のため、鉄骨柱をガス溶接機により溶断を行っていたところ、外壁（10.8m×3.6m）が内側に倒れ下敷きとなったもの。	30209	10 ～ 29
2015	9	12 ～ 13	自社敷地内の雨水排水路の補強工事中、コンクリート製の擁壁（縦約2m横約1m厚さ約30cm）を排水路内に立てて支保工で固定していたところ、支保工が折れ、排水路内で作業していた労働者が下敷きとなった。	30199	1～ 9
2016	12	16 ～ 17	被災者は解体工事現場内において、エンジンカッターを用いブロック壁の切断・解体作業を行っていたところ、当該ブロック壁の上部（8m×2.4m重量約3.3t）が倒れてきて下敷きになり死亡した。	30201	1～ 9
2016	8	16 ～ 17	家屋解体工事において、解体用つかみ機で屋根の一部を解体し、瓦礫の分別作業・搬出作業中、家屋全体が揺れたため、家屋を倒してからその後の作業を行うことにした。屋内に置いた工事用資材や工具を屋外へ搬出した後、解体用つかみ機で家屋を押したところ、家屋全体が一気に倒壊し、被災者が倒壊した屋根の下敷きになり死亡した。	30309	10 ～ 29
2016	6	9 ～ 10	木造2階建てアパートの解体作業において、前日までにアパート上屋の取り壊しを終え、解体用つかみ機運転者1名、手元4名で木くず等の積み込み作業を行っていたところ、解体せずに残していた渡り廊下（スラブデッキ）部分が落下し、その下で作業を行っていた被災者が逃げ遅れてコンクリートスラブの下敷きになった。	30309	1～ 9
2016	5	16 ～ 17	木造2階建ての牛舎解体工事において、解体用つかみ機を用いて1階部分の壁（コンクリートブロック積み）を倒そうとしていたところ、何らかの原因により当該壁（幅20m、高さ2.4m、厚さ0.15m、推定総重量7.2t）が倒れ、退避していなかった被災者が当該壁の下敷きとなり死亡した。	30209	10 ～ 29
2016	4	16 ～	橋台と橋脚に鋼製橋桁（全長123.9m）を架けるために、橋台の丘側から送出し設備を使用し、橋桁を送り出した後、橋脚側に設置した降下設備（ジャッキつり上げ装置）により橋脚側の橋桁を吊り下げた。橋台側はH鋼	30105	1～



		17	等で組み立てた架台の上に油圧ジャッキ4基設置し橋桁を受けた。橋台側を降下設備で吊り下げるために、降下設備を設置した後、鋼棒で吊り下げた受桁と橋桁にセッティングビームを置いたところ、橋桁が落橋した。		9
2016	4	16 ～ 17	橋台と橋脚に鋼製橋桁（全長123.9m）を架けるために、橋台の丘側から送出し設備を使用し、橋桁を送り出した後、橋脚側に設置した降下設備（ジャッキつり上げ装置）により橋脚側の橋桁を吊り下げた。橋台側はH鋼等で組み立てた架台の上に油圧ジャッキ4基設置し橋桁を受けた。橋台側を降下設備で吊り下げるために、降下設備を設置した後、鋼棒で吊り下げた受桁と橋桁にセッティングビームを置いたところ、橋桁が落橋した。	30105	10 ～ 29
2016	3	9 ～ 10	民家ブロック塀の解体作業にあたり、ブロック塀外側の側溝に入り手持式ブレーカーでブロック塀下部を削っていたところ、突然ブロック塀が倒壊し、倒壊したブロックと地面の間に頭部を挟まれた。	30107	10 ～ 29
2016	2	8 ～ 9	木造2階建て住宅を解体中、ベランダ部分が崩れ下にいた被災者が下敷きになった。	30209	10 ～ 29
2016	2	11 ～ 12	平屋コンクリートブロック造の壁（3面撤去済み、H=2.7m、L=7.3m）の撤去のため、電動ハンマーで基礎部のはつり作業を行っていたところ、壁が倒壊し作業員2名が下敷きとなった。	30209	1～ 9
2016	2	11 ～ 12	平屋コンクリートブロック造の壁（3面撤去済み、H=2.7m、L=7.3m）の撤去のため、電動ハンマーで基礎部のはつり作業を行っていたところ、壁が倒壊し作業員2名が下敷きとなった。	30209	1～ 9
2016	2	10 ～ 11	一般住宅（平屋）新築工事に現場において、L型擁壁を設置するため、既設のコンクリートブロック塀の横をドラグ・ショベルで50cm程度床掘りした場所を、被災者がスコップを使い床均しを行っていたところ、倒れてきたコンクリートブロック塀（高さ約1.3m重さ約3t）に胸部まで挟まれ、心肺停止状態となり、発生から約2時間後に病院で多発外傷により死亡が確認された。	30202	30 ～ 49
			コンクリートブロック用の型枠にコンクリートを打設した後に養生をするた		

2017	12	10 ～ 11	め、養生室に型枠（コンクリート及び型枠重量約1.5 t）をフォークリフトで積み上げ、コンクリートを均そうと当該型枠に足を掛けたところ、当該型枠が倒れ、倒れた型枠と隣列の下段の型枠の間に挟まれた。	10901	30 ～ 49
2017	11	10 ～ 11	建物（木造2階建）解体作業を行っていた被災者は、最後に残った浴室部分の外壁（コンクリートブロック）を解体するため、1人で外壁1階部分をハンマーではつる作業を行っていたところ、倒れてきた外壁に右足を挟まれ外傷性出血により死亡した。	30202	1～ 9
2017	11	12 ～ 13	コンクリート用骨材の砂プラント内において、構内下請業者の労働者1名が、高さ約3.6 mの砂ホッパー内の砂が凍結していたので、ホッパー下部の砂排出口に上半身を入れて電動ピックを用いて凍結した砂を崩していたところ、崩れ落ちた砂によりホッパー内で埋まり、被災した。	20202	10 ～ 29
2017	11	14 ～ 15	地震により被災した木造2階建ての建設物の解体工事において、廃材をダンブに積み込む作業中、接近した位置にあったブロック積みの壁が倒壊し、シート掛けをしようとした被災者が下敷きになり死亡した。	30202	10 ～ 29
2017	10	10 ～ 11	被災者及び職長の2名が解体用機械2台を搬入し、内1台のアタッチメントをバケットからブレーカに交換した後、職長が当該解体用機械を当日の解体予定場所まで走行させようとしたところ、ブレーカ先端が解体現場の壁（幅5 m×高さ2 m×幅15 cm、重量4 t）に当たり走行方向とは反対の解体用機械側に倒壊し、解体用機械の側面に取り外した後のバケット等を片付けていた被災者が挟まれ死亡した。	30209	10 ～ 29
2017	8	8 ～ 9	木造家屋の解体工事現場において、敷地と前面道路（私道）の境界に設置されていたコンクリートブロック塀（長さ2.8 m、高さ1.4 m、幅10 cm）が倒れた。その際に、前面道路に停車していたトラックと倒壊したブロック塀の間にいた労働者が、当該塀とトラックとの間に挟まれ死亡した。	30209	1～ 9
2017	6	8 ～	県道の歩道設置工事現場において、地山の掘削後における大型ブロック積擁壁工の現場打ちコンクリート部の施工に際し、積み上げた大型ブロックの裏側（山側）へ被災者が立ち入った際に、当該ブロックが山側に倒壊したため	30106	1～ 9

		9	被災者が地山とブロックの間に挟まれ圧迫された。倒壊した大型ブロックの重量は約4 tであった。		
2017	5	10 ～ 11	9段積みされた敷地境界ブロック塀を撤去するため、ブロック二段目で縦鉄筋をガス溶断するにあたり、被災者ともう一名にてチップパーを用いてブロック二段目と三段目の境目で、はつり作業し、縦鉄筋が見える状態とした後、ガス溶断をするにあたり問題ないかどうか目視確認していたところ、ブロック塀が傾き倒壊した。その際、被災者がブロック塀の下敷きとなり、頭部を強打したことにより死亡した。	30309	1～ 9
2017	5	10 ～ 11	生コン工場において砂堆積ヤード付近でコンクリートミキサー車の始業前点検を行っていた労働者が突然倒れてきた砂堆積ヤードの擁壁に当たりはね飛ばされ死亡した。ヤード内ではトラクター・ショベルを使用して擁壁側に砂を積み上げる作業をしていた。	10901	10 ～ 29
2017	3	10 ～ 11	鉄骨造地上3階建物（高さ12.275m）の解体工事において、3階床で壁を引き倒そうとするため、被災者が鉄骨柱の根本をガス溶断し、他の作業員が柱にかけたロープを引っ張ったが、壁が倒れなかったため、被災者が鉄骨柱を確認しに行ったところ、壁が倒れて下敷きになった。	30309	1～ 9
2017	2	8 ～ 9	宅地造成工事において、隣地付近に擁壁を設置するために、掘削作業を行っていたところ、隣地に設置されていたブロック塀が倒壊し、付近で掘削作業を行っていた労働者が挟まれ・死亡した。	30109	1～ 9
2018	12	8 ～ 9	被災者を含む4名で、個人宅（木建）の解体作業を行っていたところ、土壁が倒壊し、被災者1名が下敷きとなり、心破裂により死亡に至ったもの。	30209	10 ～ 29
2018	12	12 ～ 13	木造平屋建ての音楽教室の手作業による解体中に、防音設備として設けられていた3.88×3.47m四方のコンクリートブロックの壁部分が倒れて、当該壁の側で床の解体をしていた被災者が背中側から下敷きとなり、床材との間に挟まり被災した。災害発生当日の午前中に当該壁の周囲の木製柱と梁が解体され自立した状態であったが、突然倒れたもの。救出後、医療機関に搬送されたが、後日死亡した。	30202	10 ～ 29

2018	9	14 ～ 15	焼却炉から取り外し補修した壁（材質：粘土等、大きさ：高さ1.53m、幅2.45m、厚さ8cm、重量約200kg）を立て掛けた状態で、被災者がバールを用い固定位置の微調整を行っていたところ、立て掛けていた壁が倒れ、身体を倒壊した壁と後方のホッパー架台との間にはさまれたもの。	150102	1～ 9
2018	8	8 ～ 9	被災者は、解体用建設機械のオペレーターと共に、駐車場の周囲にあるブロック塀（13段積み、高さ2.6メートル）上部（上から5段目まで）を撤去する作業を行っていたところ、ブロック塀が崩れ（上から3段目まで）、ブロックが被災者の頭部に当たり、死亡したものである。	30209	1～ 9
2018	3	12 ～ 13	水田の漏水修繕工事現場において、石積み擁壁の裏側を深さ約1メートル、幅約80センチ、長さ約20メートルにわたってドラグショベルで掘削後、作業員2名が当該掘削溝に入り擁壁下部付近をスコップで人力掘削中、石積み擁壁が突然作業員側に倒れて被災者の下半身が挟まれた。	30199	1～ 9
2018	3	16 ～ 17	河川の落差工（コンクリート構造物＝幅4.3m・高さ2.2m・奥行0.8m重さ約10トン）及び石積み護岸を修繕する工事において、掘削作業終了後、被災者は落差工の直下において、排水用の水中ポンプを移設する作業をしていたところ、落差工が倒壊して下敷きとなった。	30107	1～ 9
2018	2	8 ～ 9	倉庫の脇のテント小屋内において、住宅の新築工事で使用する煉瓦を加工していたところ、屋根（表面はブルーシート）に積もっていた雪と倉庫からの落雪によりテント小屋が倒壊、構造部材（廃材）や落雪の下敷きになり死亡したものの。	30202	30 ～ 49
2018	1	12 ～ 13	作業員3人（被災者を含む。）が建物3階壁面解体作業中、被災者が倒れてきた壁と3階の床面との間に挟まれ、死亡したものの。	30209	10 ～ 29
2019	12	16 ～ 18	被災者が、建物の地下ピットにて躯体補強のため行われた増打ちコンクリート除去作業に従事していたところ、倒壊した増打ちコンクリート塊と壁との間にはさまれた。	30209	1～ 9
		10	民家の解体工事現場において、地上からの高さ2.1mのブロック塀を地上		

2019	10	～ 12	からの高さ0.3mの位置でコンクリートカッターで切断していたところ、長さ約20mに亘ってブロック塀が倒れ、当該ブロック塀が被災者の頭部に激突して死亡したものの。	30209	1～ 9
2019	9	14 ～ 16	ビルの1階2階テナント跡の改修（原状回復）工事で、作業員2名が1階テナントに設置されていたブロック塀（高さ180×長さ280×厚さ12cm、重量推定600kg、内部は鉄筋が組まれ、鉄筋で床に固定）の下部を、ハンマー等の手工具を使い、はつり作業（最終的に塀を作業員の反対側に倒す前提）中、当該ブロック塀が作業員の方に倒れ、1名が下敷きとなり頭部強打で死亡、1名が倒れてくる塀と接触し軽傷を負ったもの。	30209	1～ 9
2019	9	16 ～ 18	石積み塀を補強するため、床掘り（深さ50cm）作業をしていたところ、石積み塀（高さ1m、幅16m）が崩壊し、続けてその上のコンクリートブロック塀（高さ1m、幅16m）が被災者方向へ倒壊し、下敷きとなったもの。	30106	1～ 9
2019	7	14 ～ 16	浄水場において、変電所から電源を供給するためのケーブル等を格納するダクトを原水管（直径2800ミリ）の下部にアンダーパスとして施工するため、深さ約6m付近で掘削作業を行った。被災者は原水管を支える受台コンクリートの下側に矢板を設置するため、受台コンクリート下側をはつる作業をしていたところ、同コンクリート（重さ約6トン）が落下し、被災者の頭部に当たったもの。被災者は技能実習生	30199	10 ～ 29
2019	7	12 ～ 14	作業員3名で、幅1.2m弱、深さ1.6m弱の用水路脇の草刈り作業を行っていたところ、水路の中でコンクリート床の一部（コンクリートブロック：幅0.4m×長さ1.9m×厚さ0.16m、重さ約280kg）の下敷きになった被災者を発見した。死亡原因は脳挫傷であった。	30199	1～ 9
2019	6	16 ～ 18	自社の倉庫内に鉄骨造の中二階を設ける作業中、鉄骨製の柱2本と梁を組み立てた門形の部材を壁に立てかけ、これにフォークリフトを使用して持ち上げた別の梁をボルトで固定しようとしていたところ、門形の部材が倒れ、被災者の頭部に激突した。	30302	1～ 9
		10	市道の側溝の敷設替を行う工事現場において、U字溝を設置するため、ドラ		10

2019	2	～ 12	グ・ショベルを使用して掘削した溝の内部で被災者が溝の形を整えていたところ、同溝付近のブロック塀が倒れ、被災者が下敷きとなった。	30106	～ 29
2019	1	～ 12	道路片側一車線を作業帯としてのり面に雪流れ防止柵を設置する工事において、移動式クレーンのオペレーターがクレーン作業を一時中止し、待機していた際、コンクリート擁壁（短手方向、87cm）に仮置きしていた重量約2.1tの削孔機（幅90cm、）が落ちて、コンプレッサと削孔機の間には被災者が頭部を挟まれ、死亡したものの。	30199	～ 29
2020	10	～ 12	寺楼門改修工事にて、腐食した楼門の土台を取り換えるため、ジャッキを8基用いて持ち上げようとしたところ、楼門が倒壊し、倒壊した楼門に労働者2名が下敷きになったもの。なお、うち1名が頭蓋骨開放骨折により死亡した。	30202	1～ 9
2020	10	～ 12	被災者は、乾燥機で乾燥した粳を精米する業務に従事し、粳摺り機の稼働状況の確認及び調整を行っていたが、粳を受け止めるホッパーが取り付けられていた梁ごと脱落、頭部に衝撃を受けた被災者はくも膜下出血を発症し、そのまま乾燥機から排出された粳の下敷きとなり、窒息により死亡した	60101	1～ 9
2020	9	～ 12	被災者である作業主任者（指揮者）は、災害発生当日、掘削した溝（深さ約1.7m）の中に入り、墨出しレーザーで墨出し作業を行っていたところ、重さ約10トン（横20m、縦1.4m、厚さ0.15m）の擁壁がほぼ垂直に落下（約2.2m。）し、その後、被災者側に倒れたもの。	30199	～ 29

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207\\_01.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html)